

# 公開シンポジウム

## 「医療における病理解剖」の開催について

1. 主 催：日本学術会議基礎医学委員会病態医科学分科会、厚生労働省科学研究費黒田班
2. 後 援：日本病理学会、日本医歯薬アカデミー
3. 日 時：平成22年10月1日（金）、15：00～17：30
4. 場 所：東京大学医学部本館大講堂（東京都文京区本郷 7-3-1 本郷キャンパス）
5. 開催趣旨：

「医学は不確実性のサイエンスであり、推測のアートである。」 医療の場では、いかに最善の努力を傾けようとも診断、治療、看護の上で常に何らかの反省すべき問題点が残る。これまで病理解剖は、全身の病理学的検索を通じ、最後の診断として医療の検証の場において、きわめて重要な役割を果たしてきた。一方、1980年代から全国的に病理解剖数の低下が顕著となり、大学病院においても剖検率は低下した状態で留まっている。その要因として臨床側の問題、とくに「画像診断技術の進歩とその過信」、病理側の問題として臨床上の問題に対する対応能力不足、熱意不足などが言及されている。また、遺族の医療への不信感も大きな要因であると推定され、さらに、医療費ならびに医師数の抑制、新臨床研修医制度などを含む医療政策が決定的な悪影響をもたらしたとみる識者も多い。

「我々は忙しさの中に埋没して、病理学の機能を縮小、低下させていくのではないか。」 このような恐れを回避し、病理解剖を医療の中に位置づけていくには、どのようにすべきだろうか。本シンポジウムでは、内科、外科、医療安全の視点から病理解剖の意義について論じていただき、さらに関連領域との連携について考えて行く。さらに病理解剖の医療検証機能を社会に還元していく活動についても市民の視点から論じていただく。公費負担も含め、病理解剖の機能を保証していく方向性についても展望したい。

6. 次 第：
  - 主催者側挨拶 長村義之（日本学術会議連携会員、国際医療福祉大学教授）
  - 趣旨と進行の説明
    - 座長：長村義之（日本学術会議連携会員、国際医療福祉大学教授）
    - 黒田 誠（日本学術会議連携会員、藤田保健衛生大学教授）

○講演

- 病理学 : 今日の医療における病理解剖の意義と役割  
深山 正久 (東京大学教授)
- 内科学 : 内科医療と病理解剖  
栗山 勝 (大田記念病院院長、日本内科学会認定医制度審議会  
会長)
- 外科学 : 外科医療と病理解剖  
國土 典宏 (東京大学教授)
- 医療安全 : 医療安全と病理解剖  
原 義人 (青梅市立病院長、医療安全調査機構中央事務局長)
- 法医学 : 法医解剖か、病理解剖か、その区別  
岩瀬 博太郎 (千葉大学教授)
- 放射線医学 : 病理解剖と死亡時画像診断  
兵頭 秀樹 (札幌医科大学講師)
- メディア : 病理解剖への期待と限界  
原 昌平 (読売新聞大阪本社編集委員)
- 質疑と討論 : パネルディスカッション
- 閉会の挨拶 黒田 誠 (日本学術会議連携会員、藤田保健衛生大学教授)

**参加お申し込み先 (参加無料)**

参加をご希望される方は、参加を希望される方の氏名、ご所属、ご連絡先 (メールアドレス、FAXなど) をご記入の上、下記までFAXにて、ご連絡下さい。(様式は任意です)

300名を超える場合は受け付けることができません。あらかじめご了承ください。

東京大学大学院医学系研究科

人体病理学・病理診断学分野 医局内

「日本学術会議 公開シンポジウム 医療における病理解剖」受付

**FAX 03-5800-8785** (番号のお間違えのないようにお願いします)